

事業報告書



特定非営利活動法人 W·I·N·G-路をはこぶ

the Way Into the New Generation !

W·I·N·G !

2009 年度

メルクマール

個人の幸福と全体の幸福は時に相矛盾するものでしょう。しかし、その一方で、細部に全体が宿ることも事実。長らく続く日本経済の停滞は、個々人の心のひだにまで影響を及ぼしているようにも思えます。

福祉制度についても、制度設計の根本的基盤である思想・理念についての議論も、「財源」という大きな前提条件の前には、かすんで見えてしまいます。次第に縮小する日本経済…。生まれた時から恵まれた生活を享受する若者に、将来の日本の未来を託すのは酷なのでしょうか。重症心身障害者の地域生活を支援するという私たちの活動も、やがて日本経済と同じ運命をたどるのでしょうか…。

多くの若いスタッフが集う組織となった今、私たちの仕事は、重症心身障害者の地域生活を支援することであり、それは事前に定められた「作業」だけでは支えられないものであることを、どのように伝え教えるのかが大きな課題となってきました。

投手をやりたいがらない少年野球の子供たち、算数を復習する大学生、減少する日本人留学生…。閉塞する社会状況のなかで、群れる子羊たちが、この活動に誇りを持って全力でぶつかり、その責務を負うことに喜びを知り、感じること…伝え教える方法は身をもって示すこと以外にはなく、そのことに躊躇する理由はありません。群れることに安心感を抱いた彼らが、やがて自身の足で「路」に歩みだそうとする瞬間こそ、本来のNPOスタッフの姿へと変化していく時でしょう。

私たちの活動がスタートとして間もなく 20 年。ピーターパン・シンドロームに陥ることなく、大人の組織へと脱却し、かつ創意あふれた支援、活動を継続、発展させるために、ますます多くの方々から力を貸していただくことが必要です。新しい時代への道程—the Way Into the New Generation…を皆さんと共に担えるような組織へと変貌を遂げられるよう、個々のスタッフ自身が、そして「W・I・N・G—路をはこぶ」自身が、メルクマールを今こそ！

特定非営利活動法人W・I・N・G—路をはこぶ

代表理事 菅野 眞弓

～ 目 次 ～

活動報告

◆ホームヘルパー派遣事業	4
◆国際交流事業	6
◆地域交流事業	7
映画	8
フリーマーケット	8
“Tamariba”コンサート	9
“Tamariba”クラブ	11
講座	11
◆グループホーム準備施設“もくもく”	12
◆成年後見人	13
◆スタッフ採用	13
2010年度への課題	14
社員総会の開催状況	14
理事会の開催状況	15
決算報告	16
監査報告書	18
添付資料(チラシなど)	

I 事業期間

2009年4月1日 ～ 2010年3月31日

II 事業の成果

《非営利活動》

① 【ホームヘルパー派遣事業】

事業

重度訪問介護の利用者が増加しました。特別支援学校を卒業し、学校から生活介護施設へと日中生活の場が変化したことや、18歳を超えて重度訪問介護の支給決定が新たになされたことが利用増加の主な理由です。

私たちの活動で課題の一つが重症心身障害者への医療的ケアです。痰の吸引や排便、胃ろう、人工呼吸器の操作などがその対象となります。昨今この医療的ケアについて、医療関係者、家族でなくともケアができるようにし、障害者の地域生活を支えようという動きが活発化しています。医療機器の発達などによって医学的知識がさほど問われずとも扱えるようになったことは事実で、医師や看護師、家族以外の者でも医療的ケアができることによって、障害者の生活範囲、行動範囲が広がることは容易に想像できます。

ただ、医療的ケアの内容を線引きされた場合、その内側、外側がはっきりすることで、逆に困難な状況が生じる可能性もあります。これこれが医療的ケアであると定義された場合、例えば、胃ろうの管理はOKだが、排便はダメとされれば、これまでの支援は大きく後退することになってしまいます。ほんとうはダメなのかもしれないと不安でもあるわけですが、医療的ケアの外側とされることで後退する支援もあるという現実。民主党政権下で、医療的ケアの問題は大きく“前進”することが想定されますが、逆に私たちの支援にとっては逆行することになるのではないかという不安もぬぐい切れず、注視が必要です。

介護報酬については、福祉現場の過酷な労働条件というマスコミ報道等の影響もあり、介護報酬単価の引き上げが行われ、収入は増加しました。しかし、民間企業などと比較した場合に、福祉現場が過酷な労働条件に属するのかどうかは冷静な判断が必要だと思われます。



児童

児童支援の課題は、派遣開始以来、変わっていません。夏休み、冬休みといった学校の長期休暇中の支援です。移動支援などの支給量を長期休暇中に増やす決定を行政は行っていますが、その期間だけ事業所はスタッフを増やすことはできません。学生アルバイトで対応できる場合もあるでしょうが、私たちの支援の現場で、学生アルバイトがただちに支援できるケースは極めて少数に限られます。



このため派遣要請が寄せられても十分にニーズに応えられないのが現状です。児童デイサービスを実施している事業所も同様の悩みを持っているようです。解決のためには、一時的に生活介護施設などで児童を受け入れられるような定員制度改正も一案だとは思いますが、多数の児童が詰めかけ、手持ち無沙汰になっている状況が予想され、根本的解決にはなりそうにありません。

知的

漠然と日々の支援を“こなす”のではなく、将来の生活を見すえた支援が課題です。特に独居の方には、加齢とともに医療機関との関係構築や入院時の支援のあり方、成年後見制度の利用などの課題が山積みです。それぞれの課題の核心、意味をつかみ、日々の支援のなかにどう落とし込んでいくのかは、まさしく支援者の力量にかかっています。

さらに通常複数スタッフ関わっているケースでは、それぞれのスタッフの意見を取りまとめ、さらに外部関係者との調整会議を行い、一体となった支援体制を構築することが求められ、これには、相当程度の技量、経験が問われます。直接的な介護・支援とは異なり、目に見えた結果が出るには長期間の支援が必要であることから、継続的な支援が必要とされることを支援者自身が自覚することが必要でしょう。

身障

依然、新たな派遣要請が続いています。支援内容は夕方の入浴や食事の介助が中心。既に多くの利用者に支援を行っている現状のなか、特定の時間に希望が集中するため、新たな派遣希望に応えるのが非常に難しい状態となっています。

短時間に集中するニーズに応えるには、やはりアルバイトなどの活用が検討されますが、支援自体に対する動機づけに弱い面があることは否めず、どのような養成教育を行えばいいのか、現在の私たちにはかなり荷の重い課題です。この課題の解決なくしては、新たな派遣が難しい状態であり、私たちが自身の派遣・支援内容に自信を持つことのできる支援に到達すると同時に、どのよう

な研修・教育によって支援者を確保するのか、真剣に検討すべき時期に来ています。

②【国際交流事業】

ドイツ、フランスからの参加者が引き続き増加。また韓国人は元スタッフの兄弟姉妹・友人が多数を占めました。ヨーロッパ出身者の増加傾向は継続しています。

利用者さんとの関係を構築するには、ある程度の時間が必要とすること、また、単に賃金目的とした就労を避ける意味から、面接の際には6～8ヶ月以上の期間を求めています。



ただ来日青年は日本旅行を楽しみたいという希望も当然あり、一か所に長期に留まるという選択をしないケースも散見されます。このため、応募があっても採用をお断りすることがありますが、6ヶ月程度の短期間の参加をどのようにとらえていくのかも今後課題となりそうです。

ワーキングホリデー協会が解散する見通しとなりました。20年にわたり、ワーキングホリデー制度のサポートに従事され、提携国も順調に拡大の方向を示していただけに、非常に残念です。一方で、運営ノウハウの構築も大切な事業の一つであることも痛感します。

海外を希望する日本人青年を対象に講座を開催したり、外国人青年に就労先を紹介する業務はこなされていたのですが、その業務を支える運営について、スタッフたちがどれほどの関心を持っていたのか。財政事情によって、突然行政の事業継続に対する関心がなくなることはここ数年の動きから予想はされたことであり、その対応に向けて

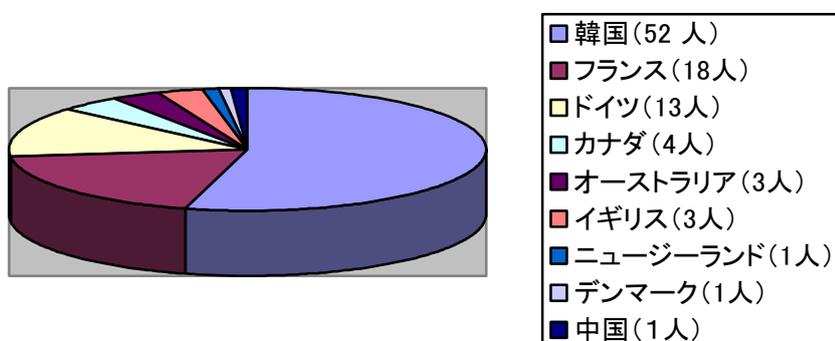


の活動をどこまで真剣にとらえることができていたか。他山の石とすべき点は

多々あるように思われます。

解散に伴って、紹介業務も当然終わることになり、今後このことがワーホリスタッフの採用にどのような影響を与えるのかは不明です。ホームページ充実に向けた改修はすでに来年度に計画。韓国の福祉フェア「Sendex2010」への出展も予定しており、PRに努める計画です。」

今年度新たに受け入れたのは、ドイツ人9人、韓国4人、フランス4人、カナダ1人の計18人です。受け入れ開始以来の出身国別人数は下図の通りです(同上)。



一方、ミーティングでは、外国人スタッフの参加をうながすために、引き続き英訳、韓国語訳の資料を準備しました。また来年度からは大阪歯科大ESSクラブの学生がミーティングに参加し、通訳ボランティアを行います。

④地域交流事業【フリースペース Tamariba (たまりば)】

障害者と地域との新しい交流の形を企図したフリースペース“Tamariba”。交流のための交流に陥りがちな“施設行事”を避けようと、利用者と地域の方々と同じ参加者という立場で参加、交流する企画を打ち出しています。

日々の活動をこなしながら企画を実行するには相当の自律心がスタッフに求められます。よりスタッフが企画・実行しやすい環境づくりが、従前と変わらず発展のための課題となっています。障害者の方を直接支援することは、目の前の課題がはっきりとしており、



スタッフも参加が用意ですが、Tamariba の活動のように、一種、企業的才覚が求められる活動については、まだまだ“未熟”の段階を脱しきれていません。

今年度も映画鑑賞会、フリーマーケット、コンサート、車イスダンス、Tamariba クラブなどの活動を行いました。

映 画

月 1 回の上映を継続していますが、施設内行事の域を越えることができませんでした。より多くの地域の方々に Tamariba に足を運んでいただき、一見、福祉とは無関係な映画鑑賞を通じて、重症心身障害者の存在を地域に知っていただくことを目的に開催しています。また、「コミュニティシネマ」としてしっかり地に足をつけた活動を継続するには、担当スタッフの不断の努力も欠かせません。地域に向けた情報発信、PR 方法を改善の余地を残しています。

◆2009 年度 Tamariba 映画鑑賞会での上映作品◆

4 月	僕らのミライへの逆回転
5 月	ジャージの二人
6 月	じゃりん子チエ 劇場版
7 月	百万円と苦虫女
8 月	モスラ対ゴジラ
9 月	大阪ハムレット
10 月	人生ごっこ!?
11 月	ONE PIECE エピソード オブ チョッパー プラス 冬に咲く、奇跡の桜
12 月	12 人の優しい日本人
1 月	名探偵コナン 天国へのカウントダウン
2 月	岸和田少年愚連隊
3 月	南国料理人

フリーマーケット

「買っていただく」「買ってあげる」という関係性が生じるバザーでなく、参加者全員が対等な関係で活動を行うフリーマーケットは、大切なフリースペースの活動に成長してきました。

福祉作業所の出店数、地域の方の出店数がちょうどいいバランスとなっていますが、開催日によっては、出店者、来客の確保が難しい時があり、課題を残しました。「キッズコーナー」やイベントは引き続き開催しています。劇的に客

数が増加するところまでにはいきませんが、出店者にも好評で、来年度も継続開催の予定です。

来客数はほぼ横ばいです。1ブース当たりの売り上げは、約 2000 円～20000 円程度です。10000 円を超える売上確保をしなければ、出店者も次回の参加を見送るケースも多くあり、出店者の努力はもちろんですが、来客数を増やすために法人も工夫を続けて行く必要があります。

◆2009 年度フリーマーケットの開催状況◆

開催日	参加ブース	イベント	売上
5月24日	中止	新型インフルエンザのため	なし
7月26日	16	プラ板キーホルダー作り	2000～20000 円
10月25日	18	ハロウィーンの飾り作り	2000～15000 円
12月20日	20	韓国料理ワークショップ	3000～28000 円

コンサート

“Tamariba” コンサートは年 4 回の定期開催が根付いてきました。さまざまな音楽を身近に感じ、また医療機器などの音を気にせず、楽しめる環境は利用者さんにとっても大切な機会です。素晴らしい音楽とその環境のミックスをスタッフも十分に理解し、楽しむことを忘れないようにする必要があります。

また今年度もアメリカ・ケンタッキー州からゴスペルグループが来日。で美声を響かせてくださいました。

課題である地域への PR 活動では、外壁に掲示板を積極的に活用する努力が見られるようになりました。



◆Tamariba コンサート◆

開催日	タイトル	出演者ら
6月13日	ハープとフルートカルテット コンサート	ハープ 石井理子 フルートカルテット「ラ・フリュート・アンシャンテ」

6月22日	ゴスペルコンサート	ケンタッキー・イマニ・バプティスト・シンガーズ JAYE 公山
9月26日	木管五重奏コンサート	フルート 川本玉代 オーボエ 井村友香 クラリネット 堀田菜緒子 ファゴット 山野裕美 ホルン 永尾敬子
12月12日	HOTな☆クリスマスコンサート	ピアノ 大藪真紀子 ピアノ 堀田久美 フルート 若松裕子 テノール 和田宏一
3月13日	弦楽四重奏コンサート	バイオリン 辻本明日香 ヴァオラ 辻本絵理香 バイオリン 誓山藍 チェロ 誓山由樹

ホームコンサート

生の音楽を直接自宅に届ける「ホームコンサート」は3年目です。クラシックコンサートへの参加が難しい重症心身障害者宅に音楽家を派遣、誕生日や親の結婚記念日に合わせることで、障害者から皆への音楽のプレゼントという形態をとります。また日常には重い障害を持った方々と出会う機会の少ない音楽家が彼らと家庭で出会う機会の提供を企図しています。

今年度は8回のホームコンサートを開催しました。昨年に続いて開催を希望される方もいらっしゃいました。一般家庭でのコンサートでは、音楽家の方が家庭に入ることになり、抵抗感を持つ方もいないわけではありませんが、少しずつ活動が根をおろしつつあります。

※大藪さん（ピアノ）、若松さん（フルート）、和田さん（テノール）、堀田さん（ピアノ）、高畑さん（バ



5月16日	大藪さん 若松さん
5月23日	大藪さん 和田さん
7月14日	大藪さん 和田さん
8月4日	若松さん 吉野さん
10月30日	大藪さん 和田さん
1月16日	大藪さん 高畑さん
1月29日	大藪さん 和田さん
2月13日	若松さん 堀田さん

イオリン)、吉野さん(ピアノ)

Tamariba クラブ

地域の子供たちとの交流を図る Tamariba クラブも 4 年目。外国人スタッフも参加するなどして、活動にもバリエーションが増えました。一方、習い事の多い子供たちがなかなか参加できない状況もあり、開催日などに工夫が必要とも感じられる 1 年でした。



8 月開催の「たまりば留学」は、ドイツ総領事館に協力を依頼。国旗をあしらった飾りを提供いただくなどの支援をいただきました。このような活動には外国人スタッフが積極的に関わり、今後の活動の新たな可能性を発見できました。



開催日	内容	参加人数	参加費
6月27日(土)	手作り石けんを作ろう	24人	200円
8月13日(木)	たまりば留学	6人	200円
12月5日(土)	親子 de クリスマス準備	19人	400円
3月25日(木)	みんなで作ろう羊毛ボール	17人	300円

講座

◆Tamariba 講座◆

今年度は2回の開催でした。千葉忠夫氏のデンマーク福祉の講義は、スタッフには



新鮮なものでした。長年デンマークに住み、福祉を見つめた視点で語っていただきました。千葉氏は、スタッフのデンマーク研修で指導を受けた方。こうして研修後も関係を保ち、また講義をしていただけることに感謝したいと思います。

ポーポキ平和教育は、ロニー・アレキサンダー神戸大教授によるもの。ポーポキという猫を通してペイントゲームを行いながら、多様な価値観の存在を学びました。ボランティアスタッフも多く参加し、新たな講座の方向性も感じさせてくれるイベントとなりました。



開催日	タイトル	講師
5月15日	デンマークの障害者福祉	千葉忠夫氏
9月5日	ポーポキ 平和教育	ロニー・アレキサンダー神戸大教授

⑤【グループホーム準備施設もくもく】

スタッフと家族とグループホーム設置に向けた話し合いを行う「輪」（つながり）は、2か月に1回の開催を継続的に行っています。

ご家族の高齢化が進み、利用者さんの将来を真剣に考える時期にきています。グループホーム・ケアホームの設置目標を2011年度に設定しました。

検討すべき課題は3点です。

1) 運営方法を、障害者自立支援法という制度下のホームにするかどうか。ホームに対する給付による運営は厳しいとの声をよく聞きます。制度下のホームにするよりも、一般の住宅にヘルパー派遣を行うほうが、運営上のスムーズなのではないかという考え方があり、十分に検討する価値があるでしょう。

2) スタッフの確保。特に中核メンバーの確保は、日々の支援において要となるもので、利用者の長期的な生活支援に強い関心とケア力、体力をもったスタッフの養成が急務となります。親亡きあとの生活を支援するというスタッフ全員の意識向上も必要ですが、24時間のケアが意味するものと、現代の若者の就労意識を比較した場合には、全員の意識向上よりも中核スタッフの養成のほうが現実的であろうとの判断をしています。

3) ホームの整備については、賃貸物件の改修、借地後の新設など複数案があります。費用対効果を十分に考慮して整備することが必要です。その一方、整備に要する費用を入居者も一定程度負担するのか、法人負担を原則とするの

か、検討すべき課題は多く、輪（つながり）で検討を続けます。

⑥【成年後見人】

スタッフ個人が、3件の後見・保佐を受任しました。しかし、1件については、本格的な後見業務を開始する前にお亡くなりになりました。

社会福祉士が受任するケースとしては、財産管理など法的困難ケースよりも身上監護について深刻なケースが多い傾向があります。身上監護については後見人の業務範囲のなかでは対応しかねる場合もありました。

後見業務を専門とするのではなく、社会貢献の観点から業務外で行う後見人の場合、本来業務との兼ね合いが難しくなってきます。社会福祉士会では、1人当たり3件を上限としているようですが、通常の施設職員が後見人となることは、時間的にも難しく、賃金労働以外の“業務”を避けようする傾向が強い昨今の環境のなかで、制度の存続は早晩立ちいかなくなるのではないかという危惧を感じます。

⑦【スタッフ採用】



男性2人、女性7人の計9人の採用を行いました。男性の採用が引き続き厳しい状況です。

インターネットの就職サイトを利用していますが、積極的な行動力をもった男子学生は従来から企業に流れる傾向があり、表向きは、「やりがいのある仕事をしたい」「人に喜ばれる仕事がしたい」という動機であるものの、実際は、「企業はしんどそう」「福祉なら企業みたいにガツガツしなくていい」といった感覚から福祉を志望する学生が多いように感じます。

当然、筆記試験においても結果は惨憺たるもので、大学生の教養の崩壊は既に現実となっています。採用試験で、小学生・中学生の計算問題ができない学生が過半数を占める現象は現実です。利潤追求という“ムチ”を持った企業と異なり、自律した行動が求められるNPOにおいて、この現状は今後大きな問題となりそうです。

日々の“作業”＝仕事と規定してしまい、NPOの社会的使命の達成＝仕事とは理解できないスタッフの増加は、“会社員のNPOスタッフ”あるいは“公務員のNPOスタッフ”という笑うに笑えない現象を招来しています。採用試験を通じて、障害者福祉に情熱をもって、自律的に活動に取り組むスタッフの

採用に引き続き傾注したいと考えています。

Ⅲ 2010年度への課題

① スタッフの養成

50人を超える規模となった今、次世代の中核となるスタッフの養成が課題です。“会社員的NPOスタッフ”からの脱却を現時点から図り、さまざまな課題に取り組み、解決し、運営を継続させていくことに手腕を発揮できるスタッフの養成をどのように図っていくのか。注ぐことのできる時間と余力を想像以上に少ないのかもしれない。

② 独自事業

国際交流、独自財源の確保などを目指して国際交流事業の充実を図ります。特に経済的関係がますます緊密となる東アジアにおいて、福祉の連携が何を意味し、どのような連携が私たちNPOで想定できるのか。

まずはワーキングホリデーの受け入れで親密感のある韓国において、事業の展開を行います。SENDEX2010において、ブース出展を行い、独自事業のPRを行う予定です。

③ フリースペース“Tamariba”など

制度にしばられない自由な発想に基づく活動を行おうと設置したフリースペース“Tamariba”。映画会、フリーマーケット、コンサート、車イスダンス、キッズクラブなどは継続的な活動を続けていますが、リーダーシップをとって各活動を主宰できるスタッフが育つことで、Tamaribaの存在意義をより深め、広げる活動の展開が可能だと考えます。

Ⅳ 社員総会の開催状況

名 称：「特定非営利活動法人 W・I・N・G-路をはこぶ総会」

日 時：2009年4月8日（水）

場 所：西成区民センター大ホール

正会員数：103人

出席者数：90人

議 案：第1号議案 2008年度決算

第2号議案 2009年度予算

審議結果：全議案について、出席者全員の承認、賛成を得られた。

名 称：「特定非営利活動法人 W・I・N・G-路をはこぶ総会」

日 時：2009年12月16日（水）

場 所：西成区民センター大ホール

正会員数：103人

出席者数：90人

議 案：第1号議案 新卒スタッフの採用

第2号議案 自立支援法に対する対応

審議結果：全議案について、出席者全員の承認、賛成を得られた。

名 称：「特定非営利活動法人 W・I・N・G-路をはこぶ総会」

日 時：2010年4月7日（水）

場 所：西成区民センター大ホール

正会員数：103人

出席者数：90人

議 案：第1号議案 新卒スタッフの採用

第2号議案 2009年度決算

第3号議案 2010年度予算

審議結果：全議案について、出席者全員の承認、賛成を得られた。



V 理事会の開催状況

日時	出席者	議案	審議結果
2009年4月24日	理事6人	2008年度決算	全議案承認
5月25日	理事6人	ホームコンサート 個人情報の取り扱い	全議案承認
6月25日	理事6人	ヘルパー派遣記録	全議案承認
7月24日	理事6人	国保連への請求方法 成年後見	全議案承認
8月25日	理事6人	研修報告	全議案承認

		移動支援について	
9月25日	理事6人	採用試験 ワーホリスタッフ	全議案承認
10月23日	理事6人	毎日就職ナビ 研修報告	全議案承認
11月25日	理事6人	個人情報の管理 就職フェア	全議案承認
12月25日	理事6人	ワーホリスタッフ スタッフ配置	全議案承認
1月25日	理事6人	研修報告 個人面談	全議案承認
2月25日	理事6人	新年度の計画について 成年後見人の受任	全議案承認
3月25日	理事6人	研修報告 成年後見 監査結果	全議案承認

決算報告

《事業収支計算書》

(2009年4月1日～2010年3月31日)

勘定科目			合計
収 入	支援費		286,514,022
	そ の 他	自己負担金	482,194
		送迎費	6,000
		受取利息	16,981
		その他	461,891
収入合計			287,481,088
支 出	事 業 費	人件費	140,063,560
		法定福利費	8,157,338
		旅費交通費	4,625,418
		消耗品費	1,298,466

	賃借料	11,677,500
	水道光熱費	1,424,737
	車輛費	526,670
	業務委託料	52,128,606
	外注清掃費	4,800,000
	保健衛生費	295,627
	保険料	879,858
	教養娯楽費	4,293,775
	減価償却費	2,346,255
	研修・教育・人材開発費	16,107,755
	修繕費	4,083,473
	業務改善 TQC 導入費	10,000,000
	雑費	653,731
事務費	事務用品費	1,549,975
	通信運搬費	1,040,909
	福利厚生費	5,491,357
	租税公課	1,521,100
	広報費	3,453,565
	監査・税務報酬	4,000,000
	雑費	436,286
	支出合計	280,855,961
	当期収支差額	6,625,127
	前期繰越収支差額	13,008,964
	次期繰越収支差額	19,634,091

収支ともに安定した運営を継続できました。

利用者の増加、規模の拡大に伴い、調整事務、運営事務など直接的な支援以外の業務が増え、かつその重要性が増しています。直接的支援に加え、幅の広い活動もその充実と共に、スタッフがより働きやすく、持てる力を十二分に発揮できる勤務体系への移行が課題となりそうです。



今年度、3人のスタッフを韓国に派遣し、福祉フェア「SENDEX2009」の

視察を行いました。今後の国際交流のあり方を探りつつ、一方、行政の裁量で左右されがちな私たちの財政基盤をより安定したものとするため、独自財源の可能性がないかを考察するためでした。多くのワーキングホリデースタッフを受け入れた経験をどのように生かすのか。一見、限定されたようにも見える課題を考えることは、重要心身障害者の地域生活支援という私たちの使命を、どの規模で、どの水準でとらえるのか、を考察することであり、徐々に私たちに課せられる責任は重くなっていきます。

Ⅶ 監査報告書